

案 件：第 2 回お互いさまのまちづくり協議会 議事録

日 時	令和6年9月27日（金）午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分
場 所	豊橋市役所 東館 8 階 東 84 会議室
参 加 者	委員 11 名 事務局 長寿介護課 福祉政策課 市民協働推進課

講座

（1）福祉政策課職員（総務省災害マネジメント支援員）による講座

- ・「被災地における要配慮者について」

— 意見 —

- ・委員：避難所では暑さ・寒さの問題がある。断熱をもっと進める必要があるのではないか。避難所の運営をどこがやるのかが曖昧になっている。豊橋市は決まっているのか。
- ・福祉政策課：避難所の環境整備については、中央防災会議で議題にあがり、国からの指針も出た。健康部が環境整備のために予算要求をしているため、徐々に進んでいくと思う。
避難所の運営については、各校区で避難所開設訓練を行っている。校区の方と職員で分担して避難所運営をするような形。豊橋では自主防災会が避難所運営の主体となっている。
- ・委員：福祉避難所・小学校等の避難所について、誰が鍵をあけるか、どのくらいの時間で開設されるのかが知りたい。
- ・福祉政策課：豊橋には第1指定避難所と第2指定避難所がある。鍵は職員と地元の方双方が所持しているため、どちらか早く着いた方が開けることになる。（通常は職員）突発的な地震災害については、第2指定避難所が開く。第2指定避難所の鍵は第1指定避難所に保管してある。
- ・委員：今は避難所を部で運営している。遠くから来る職員は避難所まで来られるのか。
- ・福祉政策課：職員をローテーションでまわすためには、部で運営する方が良いのではないかとということで今の運営方法に至った。職員はできるだけ地元の人を充てるようにしている。
- ・アドバイザー：豊橋市の自主防災会は動いているのか。
- ・福祉政策課：はい。
- ・アドバイザー：避難行動要支援者支援事業はいつから始まっているか。また、何人登録があるか。
- ・福祉政策課：10年以上前から。1200名ほど登録がある。
- ・アドバイザー：更新は行っているか。
- ・福祉政策課：行っているが、できている地域とできていない地域があるのが現状。
- ・アドバイザー：使える登録になったら良い。避難者台帳の重要性を分かっている人はどのくらいいるか。
- ・福祉政策課：避難者台帳に書き込む訓練をやっている地域もある。ハザードンというアプリを使った訓練もしている。
- ・裕アドバイザー：豊川市では結ネットを使って安否確認の訓練をしている。
- ・委員：豊橋市の備蓄食 10万人分は何日分準備されているか。

- ・福祉政策課：3日分。在宅避難者用の物資を配布するスペースを避難所の外に設ける。

(2) 令和6年度における取り組みについて（中間報告）

・事務局より説明

－ 意見 －

- ・委員：スマホ教室については、自分も参加したが「良かった」という声が多かった。講師の学生も、会場から離れているところから駆けつけていただいた。人の役に立ちたいと言っていた。登録メンバーが進学・就職すると活動を続けるのが難しくなると思う。継続して学生が参加できるような仕組みを考えたらどうか。
- ・委員：スマホ教室については、自治会がお金を出してやっていくことが必要なのではないか。できるだけ行政だけではなく、地域がお金を使って取り組んでいけたら良い。
- ・委員：とても良い雰囲気でした。同居している家族にスマホの使い方を聞くと、教えてもらえないことが多いが、このスマホ教室はその心配がなくとても良かったという声があった。
- ・委員：時間が余ったというのは、交流の際の時間か。
- ・事務局：スマホ教室の時間に、教えてもらう内容が無くなると時間が余ってしまうことがあった。
- ・委員：高齢者の中には、教えてもらうことが分からない人がいる。どこを聞いたら良いか分からない。
- ・事務局：事業としては、今後も続けていく予定。
- ・アドバイザー：高齢者が若者に何かを教えるという点では、ゲームを一緒にやるというのはどうか。若者がやったことないゲーム等をやることで、より楽しい時間になると思う。参加したごとにスタンプを集めるのも良いと思う。
- ・委員：戦争の話を高齢者から聞くのも良いが、地域の話聞くのも良いと思う。
- ・委員：交流会では、ネットワークがうまく機能していないという意見が出た。居場所のリストがあっても使えていないため、今後課題になるのではないか。子ども食堂は情報が早い。
- ・委員：キーマンになる人は必要になると思う。
- ・委員：交流会に出た人は繋がりができるが、それ以外の人たちは繋がりにくい。
- ・委員：圏域ごとの交流会は、地域が凝縮されて良いと感じた。
- ・委員：居場所活動に対する意欲が出た時に、交流会のような場があるとそれぞれのやり方を学ぶことができる。とても必要だと思った。居場所で行うレクリエーションのヒントを考える時間を交流会の中で設けるのはどうか。
- ・委員：居場所活動は独立しているところがあり、情報交換ができていない箇所もある。困っていることは皆一緒なので、情報交換はとても大切である。
- ・アドバイザー：豊川市では、居場所活動者に対して市民活動センターがレクリエーションを紹介することがある。そこから繋がりが生まれていく。
- ・委員：豊橋市は市と社会福祉協議会が繋がっていないと感じる。センターとセンターは繋がるべき。
- ・委員：必要に応じて関係者が協議会に参加してくれるとよい。

3 その他

- ・令和6年度 第3回協議会の日程について
令和7年2月26日（水）10時00分～